

2 研究の実際

(1) 言語活動に関する理論研究

(1) ビジネス情報における言語活動の充実のために

文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」(H24. 6)によると「高等学校における言語活動は、義務教育段階で身に付けた言語に関する能力、高等学校国語で指導する内容等を基本に、各学科に共通する各教科・科目や主として専門学科において開設される各教科・科目など、全ての教科・科目等において充実する必要がある。なお、主として専門学科において開設される各教科・科目のうち職業に関する各教科・科目についても、実習（実験）等において、言語活動を行うことが大切である。～中略～そして、実際の指導では、教師のみならず生徒も言語活動についてその目的を意識しながら学習に取り組むことができるようにする工夫が必要となる。このことを通じて、各教科・科目等の授業の構成や進め方自体が改善され、主体的に学習に取り組み、生涯にわたる学習の基盤を培うことにもつながる。」と述べてあります。

実際に科目「ビジネス情報」における実践事例は少なく、他教科の実践事例や学習指導要領解説等を参考としました。その結果、次のようなことが分かり、それを意識してペア学習を進めることにしました。

- ・「相手と自分の考えとの共通点や相違点を意識しながら考えを深めていく」
- ・「説明したり、相手の立場や考えをお互いに尊重して話し合ったりする」
- ・「情報を整理・分析し、論理的にまとめて表現する」
- ・「相手によく伝わるように、具体的な表現で伝える」
その際は、具体的な言葉で「何をどのように・・・」と伝えるようにする

(2) 授業実践を行う上で考えたこと

・なぜ言語活動の充実を図るのか

実習では技能を活用する能力（思考力・判断力・表現力など）を高めることを目的にしています。さらに、卒業するとすぐに産業界に就職する生徒もいるため、チームで分担し業務を行ったり、業務改善のミーティングをしたりする際に求められているコミュニケーションのトレーニングにもなると考えて、言語活動を充実させようと考えました。

その際、コミュニケーション能力を重視するため、聞く・話すという点で言語活動を充実させたいと考えました。

・なぜペア学習で行おうと思ったのか

実践事例を基に以下のようにまとめました。

実習における各授業形態のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> 基本スキルの習得の場（多くの生徒に同じ内容で一定の内容を伝達できる）となる。 【効率的】 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が個々に見取れないのでスキル差が生じる。 用語の理解が難しい生徒は、専門用語を聞いての説明では理解できない
グループ学習	<ul style="list-style-type: none"> 教える者一人に対し教わる側が多数になる。（できる者の中で結局1名が教える中心になる。） 対話に参加出来ない生徒が出る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問して操作するまでのスパンが長くなる。 深く教えるより操作法だけの指示になる。 必ずしも均等に学び合えるとは限らない。
ペア学習	<ul style="list-style-type: none"> 教える側と教わる側で1対1の対応が可能になる 学習課題の目標の達成が明確になる。 話す必要性が出てくるので、確実に対話が成立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアの組み方で成果にばらつきがある。 双方の意見が食い違くとまとまらなくなる。
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導が可能で、習得状況も即時に確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物理的な要因で対応できない（生徒側の部活動等の時間確保に支障が出る）。【非効率的】

以上のようなことから、グループ学習では、必ずしも主体的に学び合う授業となるとは限らない。ペア学習では、学習課題の目標達成が明確になるために、従来の一斉授業よりもペア学習の方が、一番効果があがるのではないかと考えました。